

提出日：2014 年 1 月

クルーズサマリー

1. 航海情報

航海番号：KY13-17

船舶名：「かいよう」

航海名称：「南海トラフ広域地震防災研究プロジェクト」

「地震・津波観測監視システム」の事前調査および構築

首席研究者〔所属機関〕：金松敏也〔海洋研究開発機構〕

課題 1 代表研究者〔所属機関〕：金田 義行〔海洋研究開発機構〕

研究課題名：課題 1：新規受託事業（仮）「南海トラフ、南西諸島海域ならびに首都圏沖合海域で発生する地震・津波の調査観測」

課題 2 代表研究者〔所属機関〕：金田 義行〔海洋研究開発機構〕

研究課題名：課題 2：「地震・津波観測監視システム」の事前調査および構築

航海期間：平成 25 年 11 月 8 日（金）和歌山 ～ 11 月 17 日（日）横須賀

出港地～寄港地～帰港地の情報：和歌山～横須賀

調査海域名：紀伊水道沖、熊野灘

調査マップ：Fig. 1

2. 背景

【課題 1】本調査は「南海トラフ広域地震防災研究プロジェクト」の一環として実施する。東南海で繰り返し起る地震によって誘発されるタービダイトを採取しその履歴を知ること、過去の地震の発生状況が明らかになると考えられる。調査海域として室戸トラフ、土佐バエおよびその周辺の斜面海盆に焦点をあて、採泥を実施する。

【課題 2】熊野灘ならびに紀伊水道沖海域において地動センサシステムのプラットフォームとなる海底ケーシングの設置を行う。海底ケーシングの適切な設置姿勢ならびに十分な貫入が確認できた場合は、コアラーと海底ケーシングを切り離す。そうでない場合には、海底ケーシングを切り離さずに揚収して再設置を試みる

3. 調査概要

【課題 1】地震により誘発されたイベント堆積物を探査するために、調査範囲内の室戸トラフ、土佐バエトラフ、斜面海盆にて 11 回のピストンコアラーによる採泥を実施した。船上では採取された試料の堆積物を特徴化するために、岩相の記載、および帯磁率測定、色反射率測定を実施

した。イベント堆積物を特徴づけるため、採取した試料を使い研究を進る。

【課題 2】 5回のケーシング設置装置の試験を行った。システムが垂直に貫入したかを傾斜計等により測定した。貫入の様子を音響通信により船上からモニタリングする事ができた。ケーシングはリリースせず回収し、システム回収後、重量バランスの適正化を図った。同様な作業を繰り返し、新システムの性能を試験することができた。

Bathymetric map for Nankai Trough, DONET2 [KY13-17]

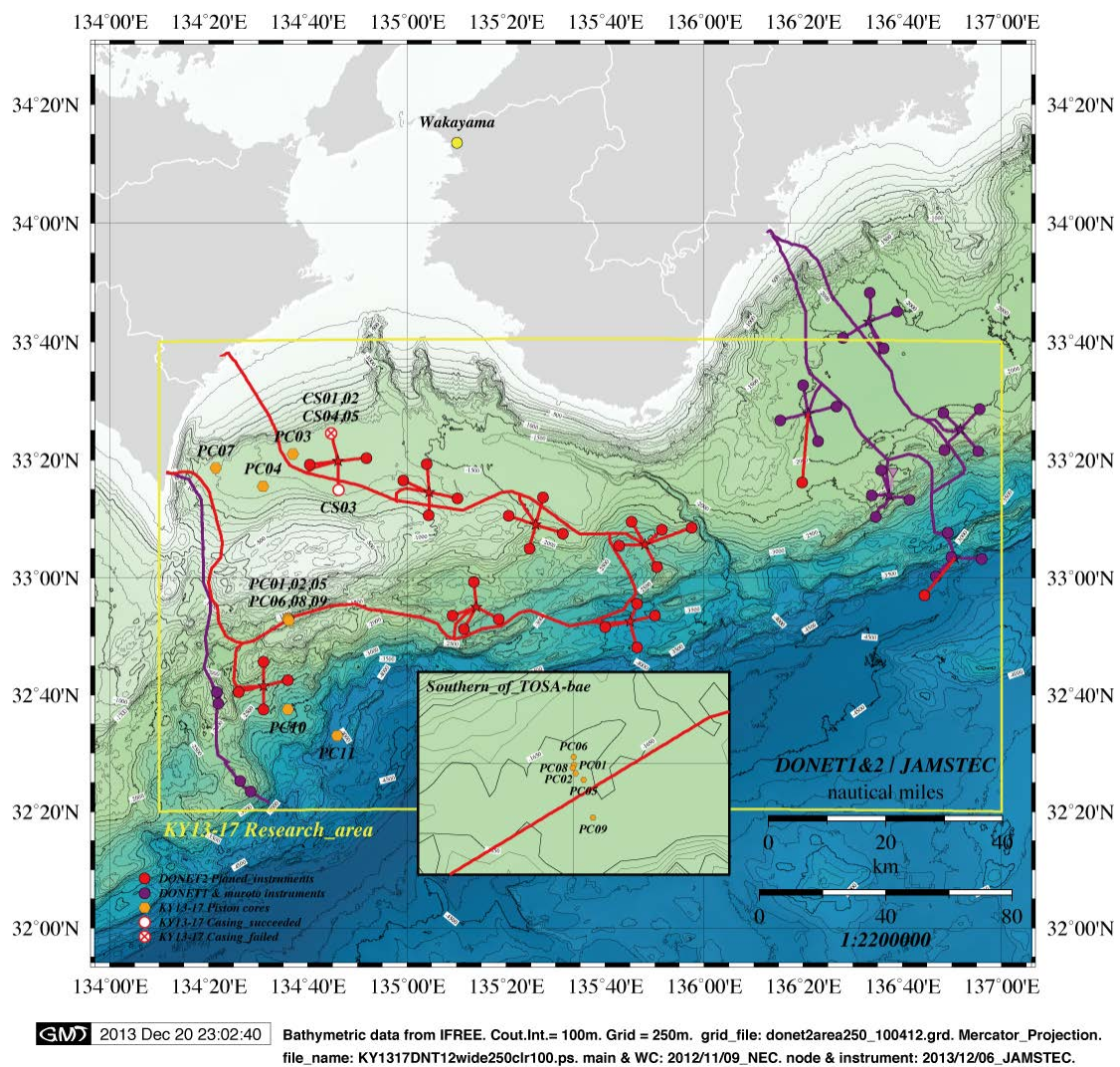


Fig. 1. KY13-17 の調査範囲